

臨床研究に関する公開情報

平成 29 年 4 月 17 日

疫学研究とは、病気にかかることの頻度や病気の多さを調べて、その原因を明らかにする研究です。私たちは過去のカルテより得られた情報を利用して、現在まで行われた病気の診断・治療の評価を行い、より良い診断・治療法を確立し患者さんに還元できるように、下記の疫学研究を行っています。

下記の疫学研究は、兵庫県立尼崎総合医療センター倫理委員会の承認を得た後、研究責任者の管轄のもとに行われます。当院にすでに記録されている臨床情報をもとに行われるため、対象となる患者さんに新たにご負担をおかけすることはありません。

また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重され、個人に関する情報(氏名など)が外部に公表されることは一切ありません。

もし、下記の疫学研究にご自身の臨床情報を使用されることに同意されない方は、下記連絡先にご連絡くだされば、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上であなたが不利益を被ることは一切ありません。また下記研究に関して、ご不明な点がございましたら、いつでも下記連絡先にお問い合わせください。

<概要>

研究課題名：「阪神地区でのカンジダ血症におけるカンジダ眼病変の多施設調査」

研究期間：2017年3月から2019年12月までを予定しています。

対象：2015年7月から2016年12月に兵庫県立尼崎総合医療センターにてカンジダ血症に伴うカンジダ眼病変で受診された方

研究目的：カンジダ血症は米国大規模サーベイランスでは、院内菌血症の原因菌の9.0%を占め全体の4位であり、代表的な合併症にカンジダ性眼病変があります。眼内炎まで進展すると視力低下を引き起こし、失明に至る場合もあることが報告されています。そのため、カンジダ血症において眼病変を適正に診断・治療することが必要です。この度、阪神地区の病院において、カンジダ血症における眼病変の発生状況、治療成績を他施設で調査します。

研究全体の統括は兵庫医科大学病院感染制御部（代表者・竹末芳生）がおこないます。

方法：阪神 ICT 活動研究会の参加施設の世話人施設において、2009年1月1日から（当院は開設した2015年7月1日から）2016年12月31日でのカンジダ血症でカンジダ眼病変が認められた症例を対象として、以下の因子について検討します。

- ・分離カンジダ菌種、βD グルカン値
- ・抗真菌薬の選択（初期選択、代替薬）、治療期間、投与量
- ・眼科診断回数、治療成績
- ・患者背景（完全静脈栄養、ステロイド、免疫抑制療法、癌化学療法、手術、年齢、悪性腫瘍、低栄養、長期ICU入室、人工呼吸器装着、重症度、糖尿病、心疾患、肝硬変/慢性肝障害、腎不全/透析、臓器移植）

個人情報：臨床情報は匿名化され、個人が特定できないようにして、必要な臨床データのみを収

集して解析を行います。そのため、本研究に協力していただく患者さんに不利益が生じることはないと考えています。しかし、そうであっても臨床情報を本研究のために使用されたくない方は、ご連絡いただければ解析対象から除外します。

問い合わせ先：

研究責任者： 遠藤 和夫

兵庫県立尼崎総合医療センター 呼吸器内科
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町 2-17-77
TEL： 06-6480-7000 FAX： 06-6480-7001